

あさひかわ もんべつ  
旭川・紋別自動車道  
(一般国道450号)  
しらたきまるせつぷ  
白滝丸瀬布道路

再評価原案準備書説明資料

平成20年度

北海道開発局

# 目 次

1. 事業の概要 .....	1
(1) 目的 .....	1
(2) 計画の概要 .....	3
(3) 経緯 .....	4
(4) 事業化以降の周辺環境の変化 .....	5
(5) 事業の進捗状況 .....	6
2. 事業の必要性等 .....	7
(1) 客観的評価指標「一般国道（高規格B）」 .....	7
(2) 事業の投資効果 .....	19
3. 事業の進捗の見込み .....	21
4. コスト縮減及び代替案立案等の可能性 .....	22
5. 関係する地方公共団体等の意見 .....	23
6. 対応方針（案） .....	25

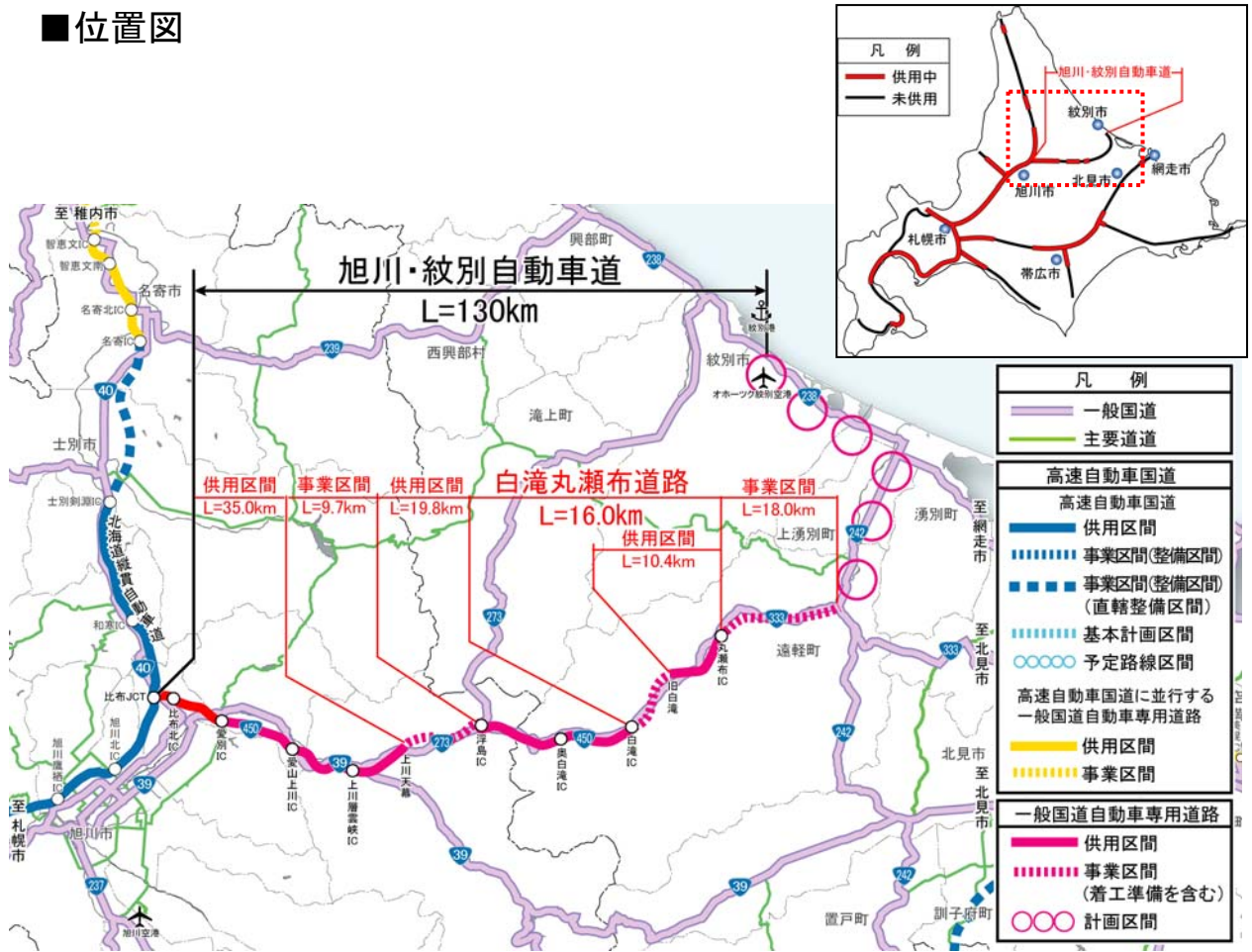
## 1. 事業の概要

### (1) 目的

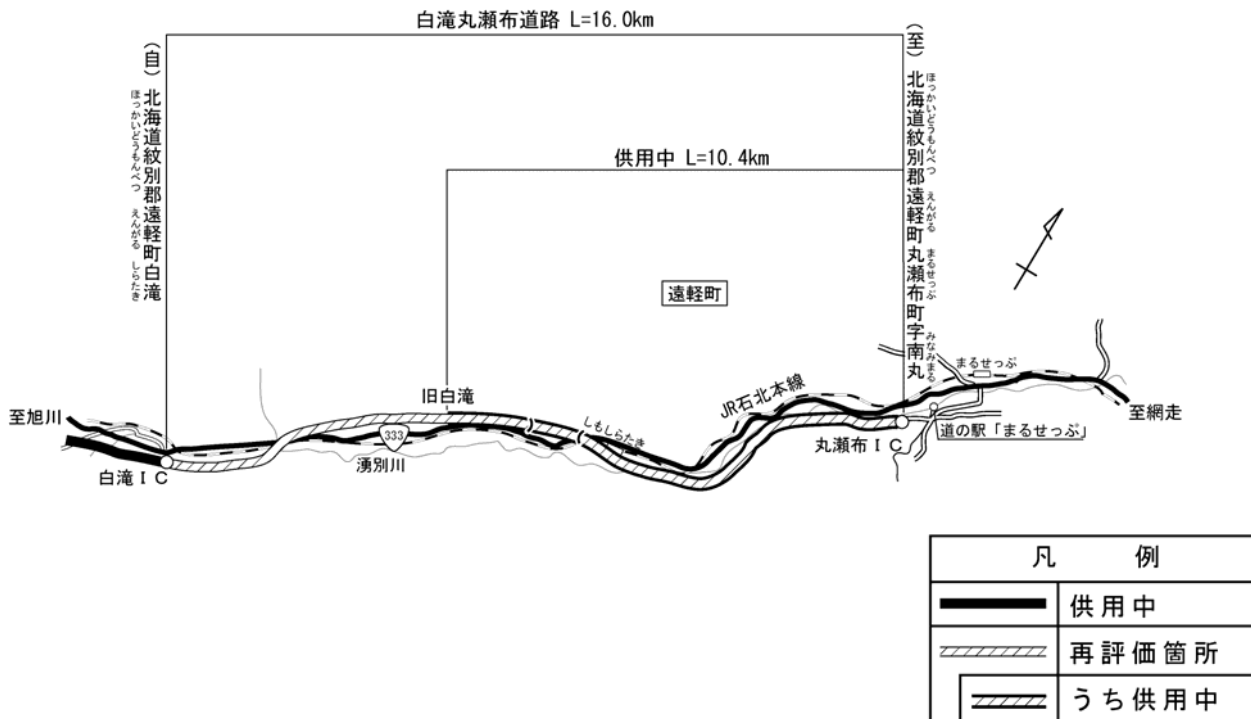
旭川・紋別自動車道は、北海道縦貫自動車道比布ジャンクションから分岐し、紋別市に至る延長130kmの一般国道の自動車専用道路であり、北海道縦貫自動車道と一体となって道央圏・道北圏とオホーツク圏を結ぶ高速交通ネットワークを形成します。

このうち白滝丸瀬布道路は、旭川・紋別自動車道の一部を形成する白滝インターチェンジから丸瀬布インターチェンジに至る延長約16kmの事業であり、道北圏とオホーツク圏の連携強化を図り、物流効率化の支援や個性ある地域の形成、円滑なモビリティの確保に寄与する道路です。

## 位置図



## 事業概要図



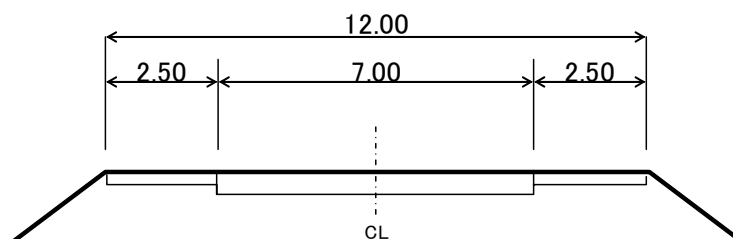
## (2) 計画の概要

- ① 起点 …… ほっかいどうもんべつ えんがる しらたき 北海道紋別郡遠軽町白滝
- 終点 …… ほっかいどうもんべつ えんがる まるせつぷ みなみまる 北海道紋別郡遠軽町丸瀬布字南丸
- ② 計画延長 …… 16.0 km
- ③ 幅員 …… (12.0 m) 23.5 m
- ④ 構造規格 …… 1種2級
- ⑤ 設計速度 …… 100 km/h
- ⑥ 車線 …… (暫定2車線) 完成4車線
- ⑦ 事業主体 …… 北海道開発局

### ■横断面

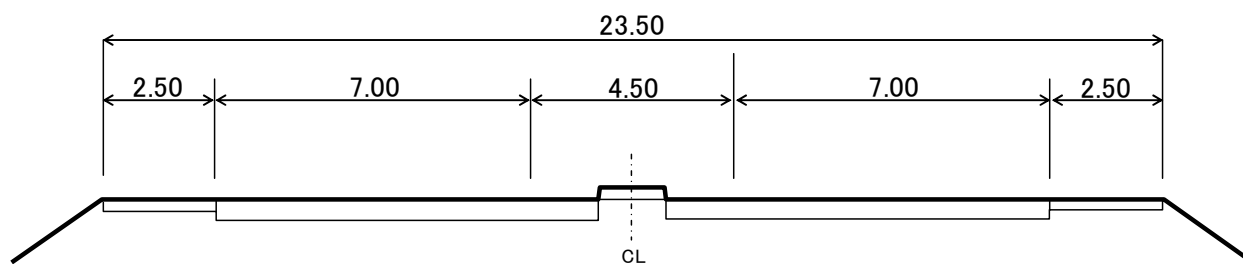
(暫定2車線)

(単位：m)



完成4車線

(単位：m)



(3) 経緯

平成 6 年度	事業化
平成 8 年度	環境影響評価手続完了
平成 10 年度	用地補償着手
平成 11 年度	工事着手
平成 18 年度	部分供用 $L = 10.4 \text{ km}$

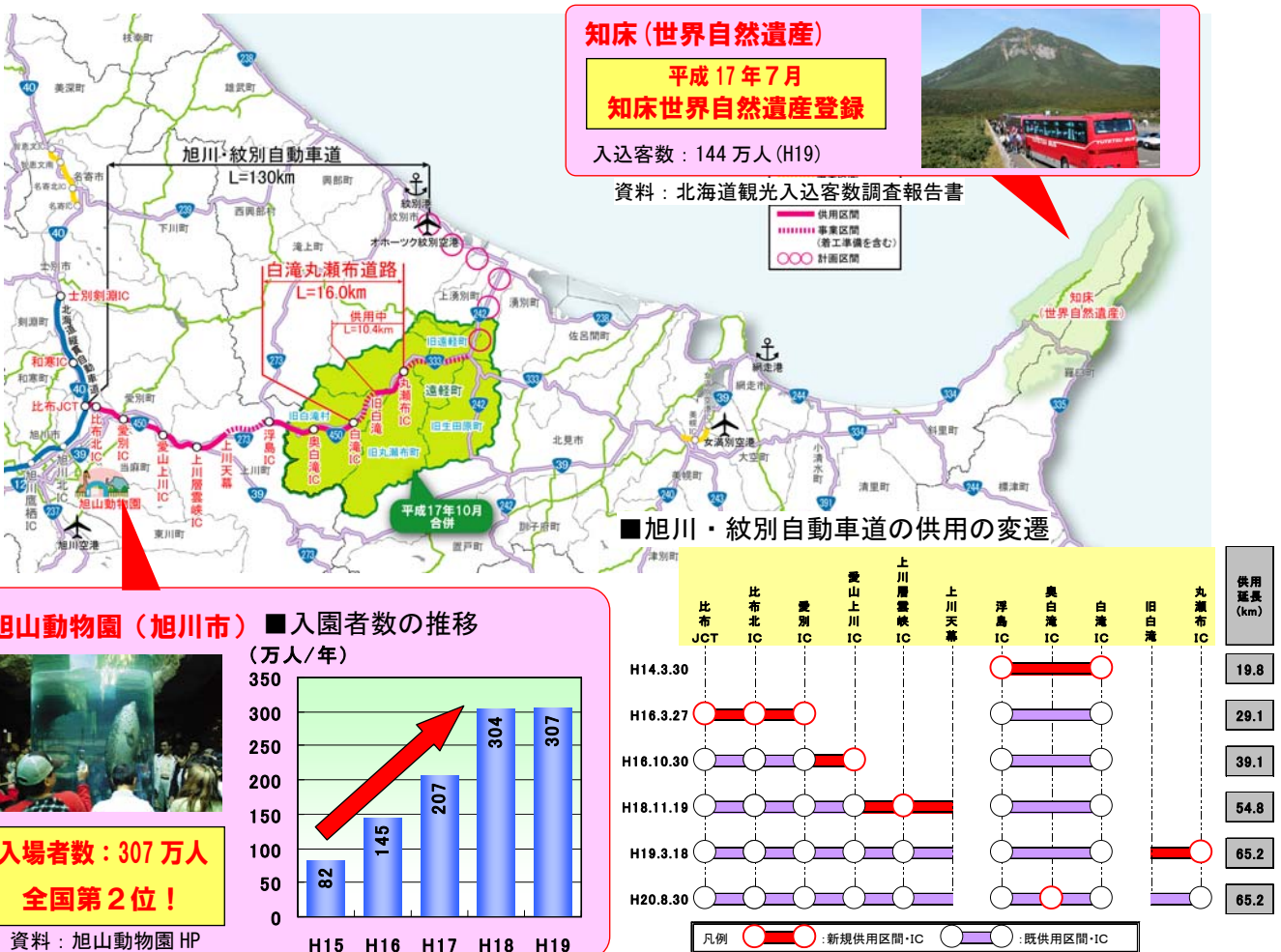
#### (4) 事業化以降の周辺環境の変化

当該事業周辺では、平成6年度の事業化以降、平成19年度末までに旭川・紋別自動車道が順次延伸整備され、現在では全延長130kmのうち約50%の約65kmが供用しています。また、平成20年8月に浮島インターチェンジ～白滝インターチェンジ間で新規インターチェンジとして奥白滝インターチェンジが供用開始しました。

当該路線周辺では、平成15年度に旭川・紋別自動車道に接続する北海道横断自動車道が士別剣淵インターチェンジまで供用されました。

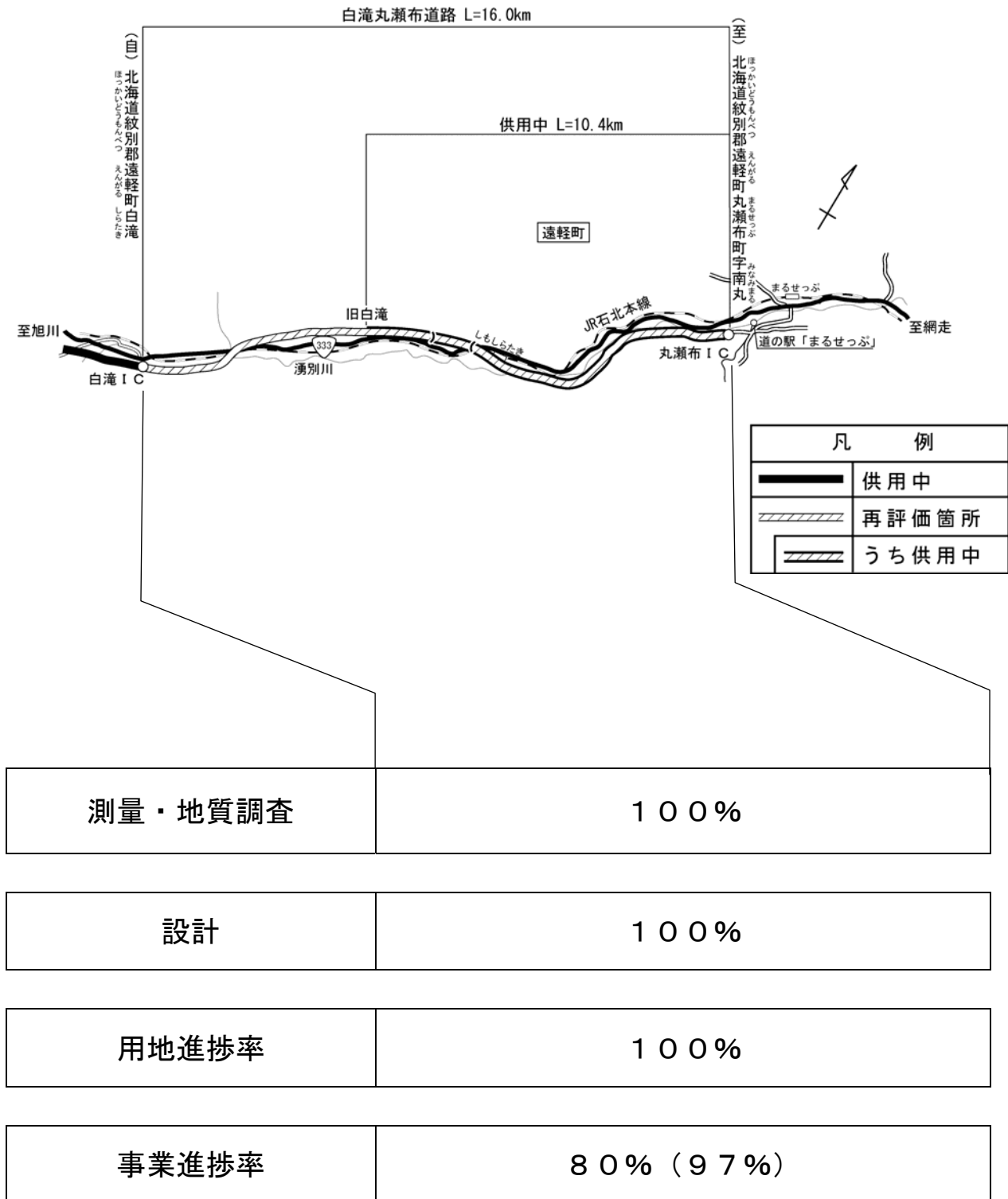
周辺の観光施設では、行動展示で注目をあびた旭川市の旭山動物園の入場者数は、平成16年度頃より急増し、平成18年度以降の入場者数は300万人を超えて全国2位となっているほか、平成17年7月、知床が世界自然遺産に登録されました。

また遠軽町は、平成17年10月に遠軽町、白滝村、丸瀬布町、生田原町が遠軽町として合併しました。



### (5) 事業の進捗状況

白滝丸瀬布道路は、平成20年度末で、用地進捗率100%、事業進捗率80%（97%）です。



※用地進捗率は用地補償費投入ベース

※事業進捗率は事業費投入ベース

※（ ）書は暫定2車線整備

平成20年度末

凡例：数字は進捗率



## 2. 事業の必要性等

### (1) 客観的評価指標「一般国道（高規格B）」

政策目標	指 標	資料 ページ	
活 力	円滑なモビリティの確保	<input type="checkbox"/> 並行区間等の年間渋滞損失時間（人・時間）及び削減率	
		<input type="checkbox"/> 並行区間等における混雑時旅行速度が20km/h未満である区間の旅行速度の改善が期待される	
		<input checked="" type="checkbox"/> 並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる	14
		<input type="checkbox"/> 新幹線駅へのアクセス向上が見込まれる	
		<input type="checkbox"/> 空港法による空港もしくは共用飛行場へのアクセス向上が見込まれる	
	物流効率化の支援	<input checked="" type="checkbox"/> 特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる	15
		<input checked="" type="checkbox"/> 農林水産業を主体とする地域から大都市圏への農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる	9, 10
	都市の再生	<input type="checkbox"/> 都市再生プロジェクトを支援する事業である	
		<input type="checkbox"/> 三大都市圏の環状道路を形成する	
		<input type="checkbox"/> 市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり	
国土・地域ネットワークの構築	<input checked="" type="checkbox"/> 当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する	8	
	<input type="checkbox"/> 当該路線が隣接した日常活動圏中心都市間を最短時間で連絡する路線を構成する		
	<input type="checkbox"/> 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる		
個性ある地域の形成	<input type="checkbox"/> 拠点開発プロジェクト、地域連携プロジェクト、大規模イベントを支援する		
	<input checked="" type="checkbox"/> IC等からのアクセスが向上する主要な観光地が存在する	11, 12	
	<input type="checkbox"/> 新規整備の公共公益施設へ直結する道路である		
2 暮 ら し	安全で安心できる暮らしの確保	<input checked="" type="checkbox"/> 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる	13
3 安 全	安全な生活環境の確保 災害への備え	<input type="checkbox"/> 並行区間等に死傷事故率が500件/億台キロ以上である区間が存在する場合において、交通量の減少、歩道の設置又は線形不良区間の解消等により、当該区間の安全性の向上が期待できる	
		<input checked="" type="checkbox"/> 対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災緊急事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり	16
		<input type="checkbox"/> 緊急輸送道路が通行止になった場合に大幅な迂回を強いられる区間の代替路線を形成する	
		<input type="checkbox"/> 並行する高速ネットワークの代替路線として機能する	
		<input type="checkbox"/> 並行区間等の事前通行規制区間、特殊通行規制区間又は冬期交通障害区間の代替路線を形成する	
4 環 境	地球環境の保全 生活環境の改善・保全	<input checked="" type="checkbox"/> 対象道路の整備により削減される自動車からのCO2排出量	17
		<input type="checkbox"/> 並行区間等における自動車からのNO2排出削減率（三大都市圏のみ算出）	
		<input type="checkbox"/> 並行区間等における自動車からのSPM排出削減率（三大都市圏のみ算出）	
		<input type="checkbox"/> 並行区間等で騒音レベルが夜間要請限度を超過している区間について、新たに要請限度を下回ることが期待される区間がある	
		<input type="checkbox"/> その他、環境や景観上の効果が期待される	
5 そ の 他		<input type="checkbox"/> 他機関との連携プログラムに位置づけられている	
		<input checked="" type="checkbox"/> その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される	18

注：●は定量的に評価を行う指標

■は効果のある指標

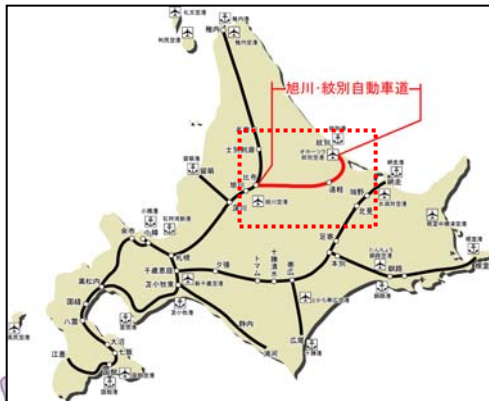
## 客観的評価指標①

「当該路線が新たに拠点都市間を高規格幹線道路で連絡するルートを構成する」

当該事業は、旭川圏の拠点都市である旭川市と紋別圏の拠点都市である紋別市を新たに連絡する高規格幹線道路旭川・紋別自動車道の一部を構成します。

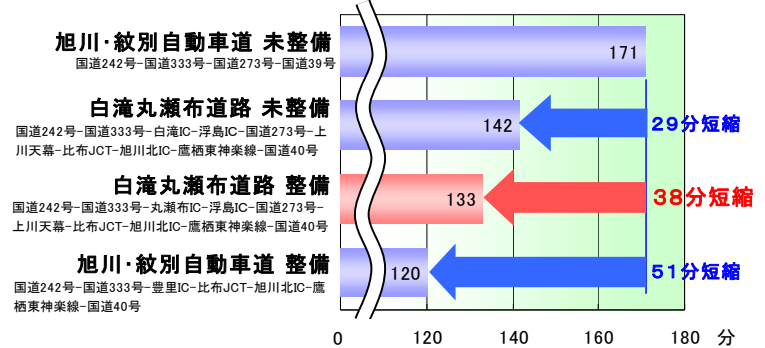
当該事業の整備により、旭川市から遠軽町を経由し、紋別市、北見市への拠点都市間のアクセス性が向上します。

### ■北海道の高規格幹線道路網の計画



資料：北海道開発局

### ■遠軽町ー旭川市間アクセス時間の変化



資料：H19 北海道市町村勢要覧、2008 全国大型小売店舗総覧(東洋経済)、H18 北海道保険統計年報  
※北見市のデータは合併後のデータです。

## 客観的評価指標②

「農林水産業を主体とする地域において農林水産品の流通の利便性向上が見込まれる」

### ＜水産品流通の利便性向上＞

網走支庁は、北海道有数の水産地域であり、平成18年度の漁業生産高は約520億円で、全道第1位となっています。

網走支庁の主要な水産物であるほたては、全国の漁獲高の約5割を占めており、このうち、網走支庁内の加工場で生産された生食用貝柱や冷凍貝柱は、旭川・紋別自動車道や国道等を経由して、札幌市や関東、関西方面へ出荷されています。

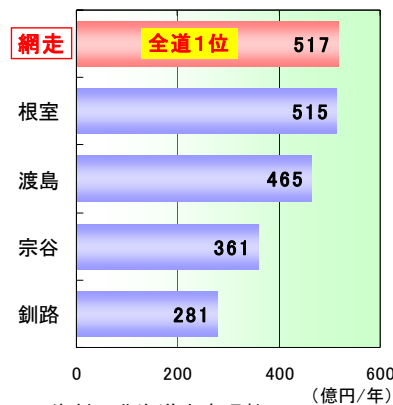
付加価値の高い生食用貝柱は、網走支庁は消費地から遠隔に位置しているため、輸送時間の短縮が課題となっていました。

当該事業の整備により、網走支庁と道内・道外の大消費地市場等との高速交通体系が強化され、水産品流通の利便性向上が図られています。

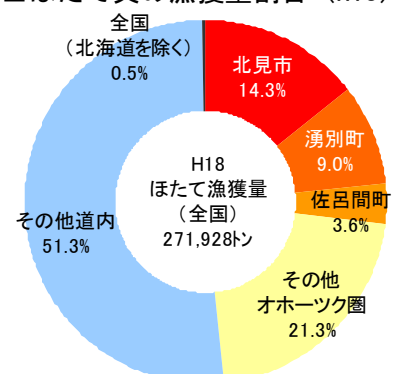
#### ■ホタテ貝の道外への出荷状況



#### ■全道支庁別漁獲高 (H18: 上位5支庁)



#### ■ほたて貝の漁獲量割合 (H18)



資料: 湧別・常呂漁業協同組合ヒアリング  
平成18年漁業・養殖業生産統計年報

#### 【水産品輸送会社の声】

ほたて生食用貝柱は、毎日、苫小牧港発19時のフェリーにあわせて午前中に加工場を出発しています。しかし、ほたて加工品の出荷量が多い日や水揚げ時間が遅れた日など、年間の約半分は出発時間が午後になってしまうため、輸送時間が短縮できる旭川・紋別自動車道を利用しています。

## ＜農畜産物の輸送利便性の向上＞

網走支庁の平成18年度における農業産出額は、約1,700億円で、全道第2位となっています。特に、当該地域は北海道有数の酪農地帯であり、農業産出額のうち、畜産が約4割を占めており、肉用牛の飼養頭数も近年増加傾向にあります。網走支庁で生産された生体牛は、佐呂間町の市場で売買され、当該路線を經由して苫小牧港や小樽港から関東、関西方面などへ輸送されています。生体牛は輸送のストレスに敏感であり、揺れが少ない安定した輸送が必要となります。

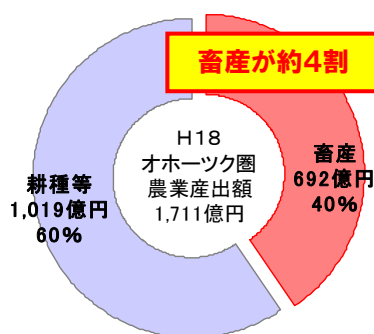
当該路線の整備により、輸送時間が短縮されるとともに、安定性、安全性の高い輸送が可能となり、農産品輸送の利便性向上が期待されます。

■支庁別農業産出額上位5支庁 (億円)



資料：H18 北海道農林水産統計

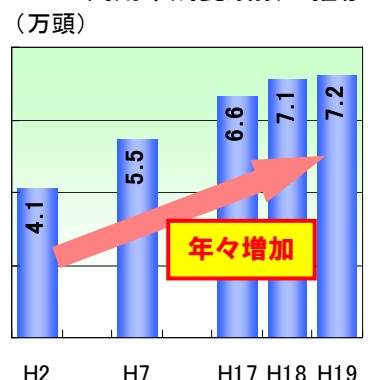
■網走支庁の農業産出額内訳



資料：H18 北海道農林水産統計

■網走支庁の

肉用牛飼養頭数の推移



資料：北海道農林水産統計

■生体牛の輸送状況



資料：生体牛輸送業者ヒアリング

【生体牛輸送業者の声】

北見家畜市場から道内外の購買者の牧場まで生体牛を輸送しています。生体牛は、揺れや振動により倒伏の危険性があり、また、輸送の際には適切な管理（給餌、休憩等）を行うなど、牛にストレスがかからないような運転が要求されます。

このため、高規格道路の利用を基本としています。旭川紋別自動車道（比布 JCT-愛別 IC間）の供用前は、旭川市内の信号や交差点で慎重なハンドル操作やブレーキが必要でしたが、当該区間の利用により、旭川市内を回避することが可能となり、生体牛輸送の効率化が図られ、牛に与えるストレスが軽減されています。

### 客観的評価指標③

「IC等からのアクセスが向上する主要な観光地が存在する」

当該地域は、大雪・知床の2つの国立公園を有する自然豊かな観光地を形成しており、平成19年度の観光入込数は約2,100万人となっています。特にオホーツク圏は、流水砕氷船を運航する紋別市や網走市など、冬期観光でも人気が高い地域で、オホーツク圏と旭山動物園などの道北圏を広域周遊する冬期観光ツアーが行われています。

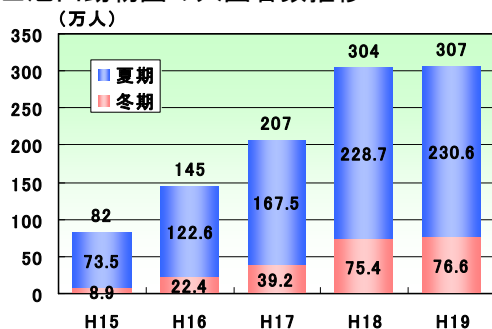
しかしながら、冬期のオホーツク圏は、急勾配、急カーブなどが多く、気象条件の厳しい峠越え区間の存在など、安全で円滑な冬期交通の確保が課題となっています。

当該事業の整備により、冬期の観光交通の円滑化及び安全性の向上が図られ、オホーツク圏の冬期観光における利便性向上が期待されます。

#### ■冬期観光ツアーの事例と主要観光地

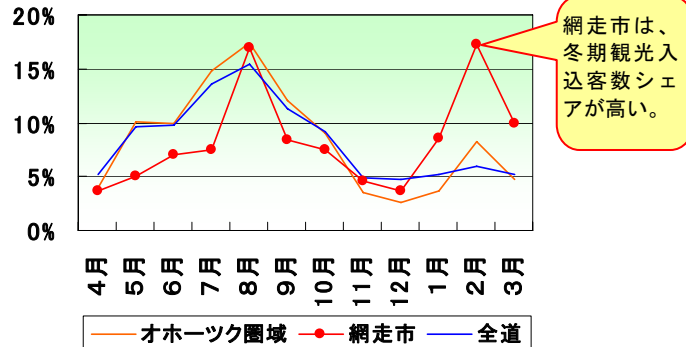


#### ■旭山動物園の入園者数推移(万人)



冬期開園期間延長により、冬期の入園者も増加。

#### ■月別観光入込客数比率



#### 【観光バス事業所の声】

旭川・紋別自動車道の整備により、冬期の移動時間が短縮し、到着時間の遅れの解消が図られるとともに、峠区間をさけた安全なツアールートが確保され、ドライバーの運転疲労も軽減するため、今後の整備促進を期待しています。

## ＜旭川・紋別自動車道延伸供用の効果＞

スキー客の減少で休業していた遠軽町白滝の北大雪スキー場は、旭川・紋別自動車道の延伸供用などで一定の集客が見込めるものと判断し、平成19年3月に8年ぶりに営業を再開しました。

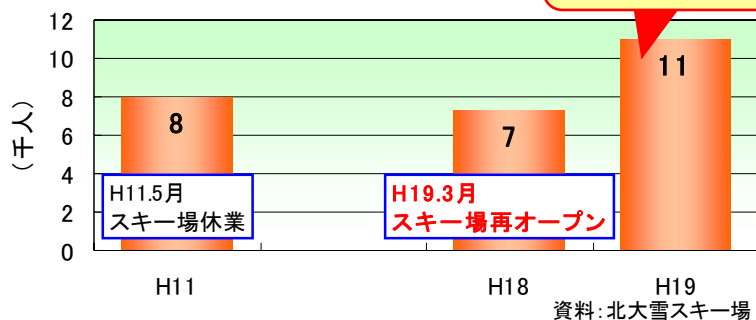
現在は12月上旬～1月中旬、3月上旬～5月上旬に営業し、スキー場駐車場は満車状態が続くなど、にぎわいを見せており、北見方面や旭川、札幌市方面など道内各地からの来訪が見られます。

また、当スキー場のクロスカントリーコースでは「白滝犬ぞりツーリングフェスティバル」が開催を開始しました。

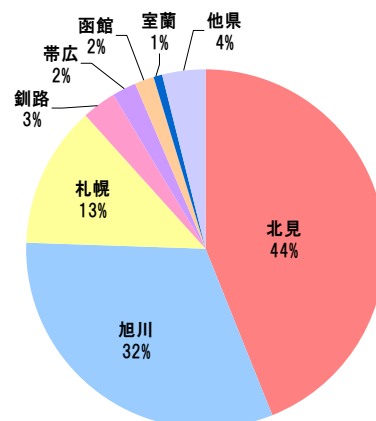
当該路線の整備により、周辺観光施設等への移動時間の短縮や峠などの隘路回避による安全性向上に寄与し、地域観光の活性化を支援します。



■北大雪スキー場の入場者数の推移



■北大雪スキー場来場車両ナンバープレート調査結果



資料: 北大雪スキー場  
平成19年3月15日～5月6日の調査結果 (N=2,594)

## 客観的評価指標④

「三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる」

沿線地域の主な救急搬送先は、旭川市、北見市、遠軽町となっています。現在、遠紋地域には3次医療施設が無く、施設のある旭川市や北見市まで救急搬送している状況であり、旭川・紋別自動車道の延伸整備に伴い、旭川市への搬送比率が多くなっています。

当該道路の整備によって、高速性に優れ、揺れが少ないことから、支庁境を越えるオホーツク地域の救急医療に貢献するとともに、遠軽町周辺地域の緊急搬送にも寄与します。

### ■旭川市への救急搬送状況（H19）



#### 旭川赤十字病院

※上川支庁の3次医療施設



- 診療科目数：21科
- 病床数：657床

#### 【診療科目】

内科、精神科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、外科整形外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、神経内科、歯科、歯科口腔外科

#### 北見赤十字病院

※網走支庁の3次医療施設



- 診療科目数：16科
- 病床数：680床

#### 【診療科目】

内科、消化器科、精神神経科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科

資料：網走開発建設部、旭川赤十字病院HP  
北見赤十字病院HP

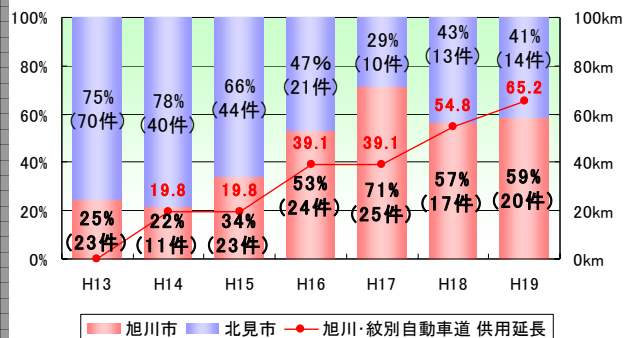
### 【遠軽地区広域消防組合の声】

旭川市への救急搬送には、旭川・紋別自動車道を利用しています。

脳血管障害の患者の場合には、急ブレーキを踏むと脳に血液が流れるため、医師からは急ブレーキを踏まないよう指導されています。

旭川・紋別自動車道の整備により、搬送時間の短縮や現道の急カーブ区間の回避が可能となり、より迅速で安定した救急搬送ができるため、早期の整備を期待します。

### ■遠軽町から旭川市・北見市への救急搬送比率



資料：網走開発建設部

### 客観的評価指標⑤

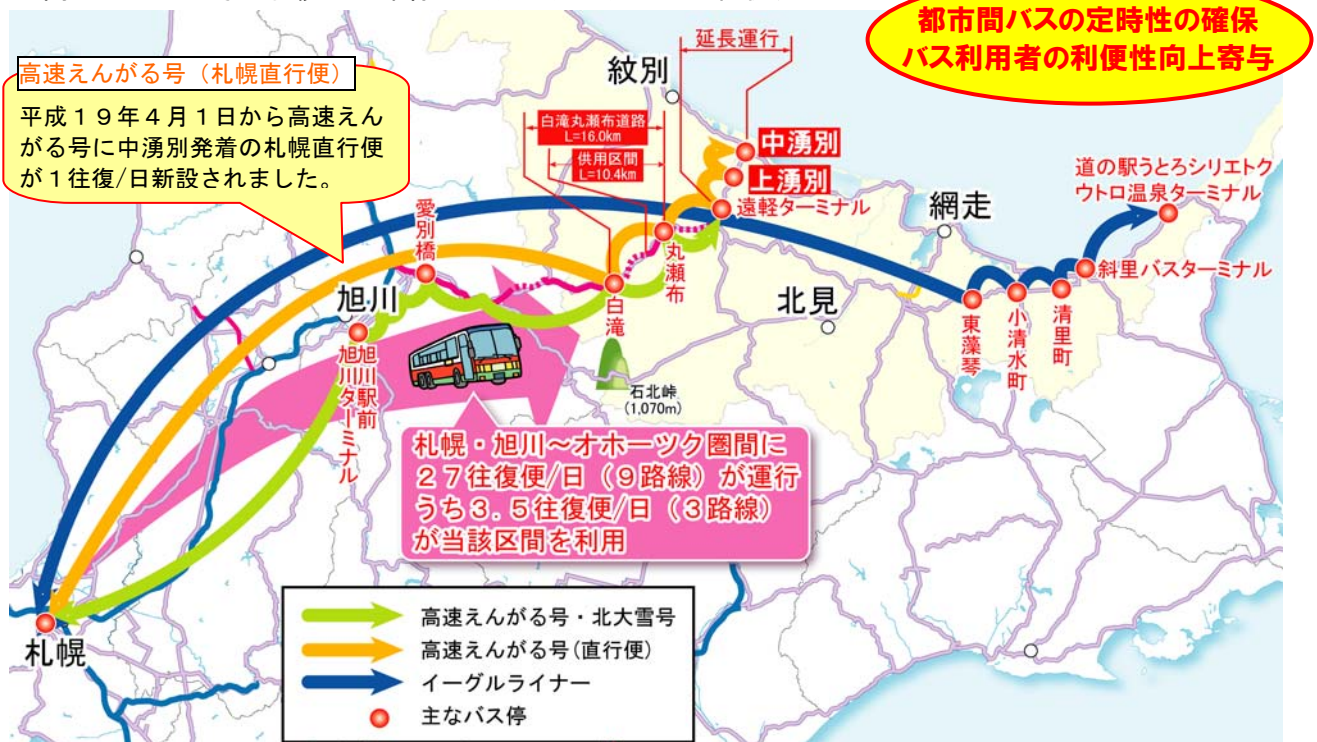
「並行区間等に、当該路線の整備により利便性の向上が期待できるバス路線が存在する又は新たなバス路線が期待できる」

札幌・旭川とオホーツク圏を結ぶ都市間バスは、9路線、1日27往復運行し、年間約36万人が利用する重要な公共交通機関となっています。特に札幌市と遠軽町を結ぶ都市間バス高速えんがる号は、旭川・紋別自動車道の延伸整備により平成19年4月より札幌市と遠軽町を直接結ぶ直行便が新設され、遠軽町から先の上湧別、中湧別まで延長運行されております。

また、札幌⇄知床線イーグルライナーが、石北峠ルートから通行止めリスクの回避、運転性の向上を理由に旭川・紋別自動車道経由に変更しました。

当該事業の整備より、都市間バスの定時性の確保が図られ、バス利用者の利便性向上に寄与することが期待されます。

#### ■高速えんがる号・札幌⇄知床線イーグルライナーの運行状況



#### 【高速えんがる号(直行便)利用者の声】

旭川・紋別自動車道の整備により、札幌へ行く回数が増えました。札幌で買い物の時間が長くとれるようになりました。

#### 【バス事業者の声】

高速えんがる号直行便は、旭紋道の整備により、移動時間の短縮や安全性・快適性・利便性の向上が図られることから、運行を開始しました。

イーグルライナーは、通行止めリスクの回避、運転性の向上を目的に、石北峠経由から旭川・紋別自動車道に変更しました。



## 客観的評価指標⑥

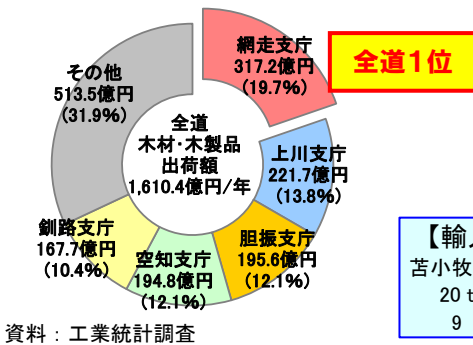
「特定重要港湾もしくは国際コンテナ航路の発着港湾へのアクセス向上が見込まれる」

網走支庁における木材・木製品製造業出荷額は、約320億円（H18）で、道内1位となっており、苫小牧港を利用した木製品移出量は、遠軽町が第3位となっています。

遠軽町には、国内ピアノ生産台数の約7割を占めるピアノ木製部品を製造するメーカーが立地しており、材料の輸入原木や製品は、苫小牧港を経由し輸送されています。精密さと均一性を要求されるピアノ木製部品は、揺れや振動に弱く、急カーブの少ない安定した輸送ルートが望まれています。

当該事業の整備により、苫小牧港への輸送の迅速性、安全性が向上し、オホーツク圏の木製品流通の利便性向上が期待されます。

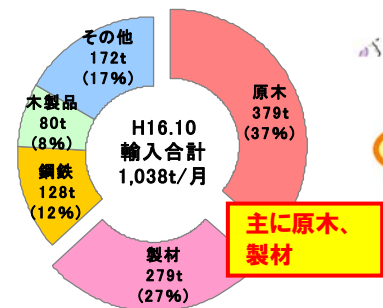
■木材・木製品製造業出荷額(H18)



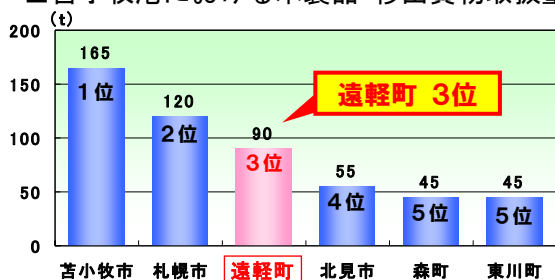
■ピアノ木製部品・原木輸送ルート



■苫小牧港におけるオホーツクへの貨物流動（輸入）



■苫小牧港における木製品 移出貨物取扱量



### 【遠軽町木製部品メーカーの声】

約1年間と長い製造期間と専門技術を要するピアノ響板に、輸送途上で損傷が生じることは経済的な損失だけではなく、納入先の信頼の面からも絶対に避ける必要があります。このため、輸送時の揺れや振動を極力抑えた慎重な運転に細心の注意を払っています。

旭川・紋別自動車道の整備により、国道の急カーブ部を回避した、ピアノ木製部品の一層の安定輸送が可能となり、早期の整備を期待しています。

## 客観的評価指標⑦

「対象区間が、都道府県地域防災計画、緊急輸送道路ネットワーク計画又は地震対策緊急整備事業計画に位置づけがある、又は地震防災事業五ヶ年計画に位置づけのある路線（以下「緊急輸送道路」という）として位置づけあり」

旭川・紋別自動車道の供用区間、および当該区間に並行する国道333号は、緊急輸送道路ネットワーク計画において「緊急輸送道路」に位置づけられています。

当該事業の整備により、幹線道路ネットワークが多重化し、防災対策や危機管理の充実に寄与します。

### ■緊急輸送道路と防災拠点



資料：北海道緊急輸送道路ネットワーク計画書  
(北海道緊急輸送道路ネットワーク協議会)

- ※ 図は、緊急輸送道路のうち、高速道路、国道、主要道道のみを示しています。
- ※ 緊急輸送道路により、連絡する防災拠点のうち地方公共団体、指定地方行政機関、自衛隊、災害医療拠点を示しています。

### ※緊急輸送道路ネットワーク計画

：災害対策基本法、及び地震防災対策特別措置法に基づき策定

- 第一次緊急輸送道路とは、県庁所在地、地方中心都市及び重要港湾、空港、総合病院、自衛隊、警察、消防等を連絡する道路
- 第二次緊急輸送道路とは、一次緊急輸送道路と市町村役場、主要な防災拠点（行政機関、公共機関、主要駅、港湾、ヘリポート、災害医療拠点、備蓄集積拠点、広域避難地等）を連絡する道路
- 第三次緊急輸送道路とは、その他道路（第一・第二次緊急輸送道路と防災拠点を相互に連絡する道路）

客観的評価指標⑧

「対象道路の整備により削減される自動車からのCO<sub>2</sub>排出量」

CO<sub>2</sub>排出量は、整備無では4,655,400 (t - CO<sub>2</sub> /年) ですが、当該事業の整備により4,648,457 (t - CO<sub>2</sub> /年) となり、整備されない場合に比べ6,943 (t - CO<sub>2</sub> /年) の削減が見込まれます。

※対象地域：網走、上川、胆振、日高、十勝、釧路、根室支庁

※平成42年将来交通量推計を基に算出

### 客観的評価指標⑨

「その他、対象地域や事業に固有の事情等、以上の項目に属さない効果が期待される」

平成17年10月に遠軽町、白滝村、丸瀬布町、生田原町は市町村合併にて遠軽町と広域な行政エリアとなり、効率的な行政の確立を図るべく、ゴミ処理やし尿処理の行政サービスを広域事業で行っています。

当該事業の整備により、旧白滝村から遠軽町市街地へのアクセスが向上し、広域行政の取り組みがより効率的に推進されるとともに、人員や車両の削減による経費削減が期待されます。

#### ■市町村合併（遠軽町）の状況と広域行政サービスの状況



#### 【遠軽町の声】

行政サービスの広域化に伴い、旭川・紋別自動車道の利用による移動時間の短縮等により、コスト削減が図られました。

今後も整備がすすめば、利用すると思われます。とくに旭川紋別自動車道 浮島～遠軽間が整備されれば、人員や車両の削減による経費削減につながることを期待されます。

## (2) 事業の投資効果

### 費用便益分析の結果（事業全体）

計画交通量 (台/日)	車線数
12,400	4

#### ①費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成20年		
単純合計	590億円	122億円	712億円
基準年における 現在価値(C)	636億円	45億円	681億円

#### ②便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成20年			
単年便益 (初年度便益)	68億円	5.8億円	3.4億円	78億円
基準年における 現在価値(B)	1,156億円	99億円	58億円	1,312億円

#### ③結果

費用便益分析 (B/C)	1.9
--------------	-----

注) 費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

## 費用便益分析の結果（残事業）

### ①費用

	事業費	維持管理費	合計
基準年	平成20年		
単純合計	118億円	122億円	240億円
基準年における 現在価値（C）	106億円	45億円	151億円

### ②便益

	走行時間 短縮便益	走行経費 減少便益	交通事故 減少便益	合計
基準年	平成20年			
単年便益 （初年度便益）	35億円	1.2億円	1.0億円	37億円
基準年における 現在価値（B）	589億円	21億円	18億円	627億円

### ③結果

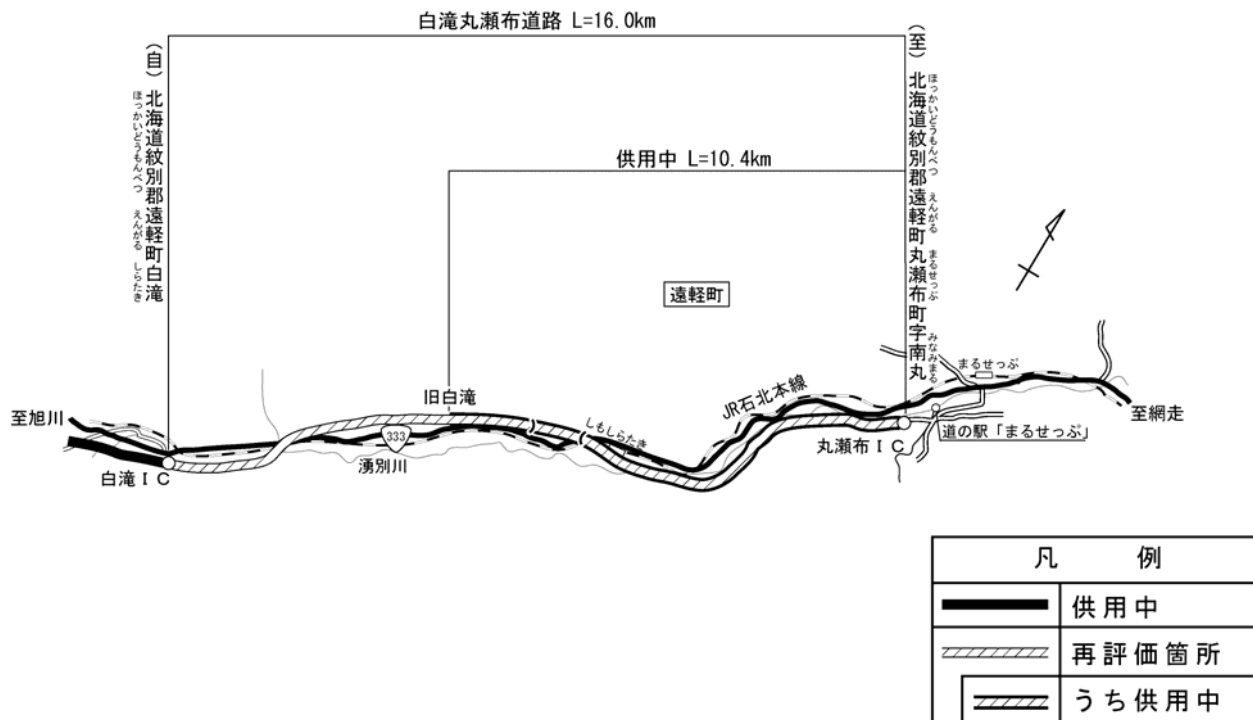
費用便益分析（B/C）	4.2
-------------	-----

注）費用及び便益の合計は、表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある。

### 3. 事業の進捗の見込み

当該事業は、平成6年度に事業化し、平成11年度に工事着手しています。

今後の見込みについては、引き続き事業が順調に進んだ場合、平成20年代前半に暫定2車線供用を予定しています。



## 4. コスト縮減及び代替案立案等の可能性

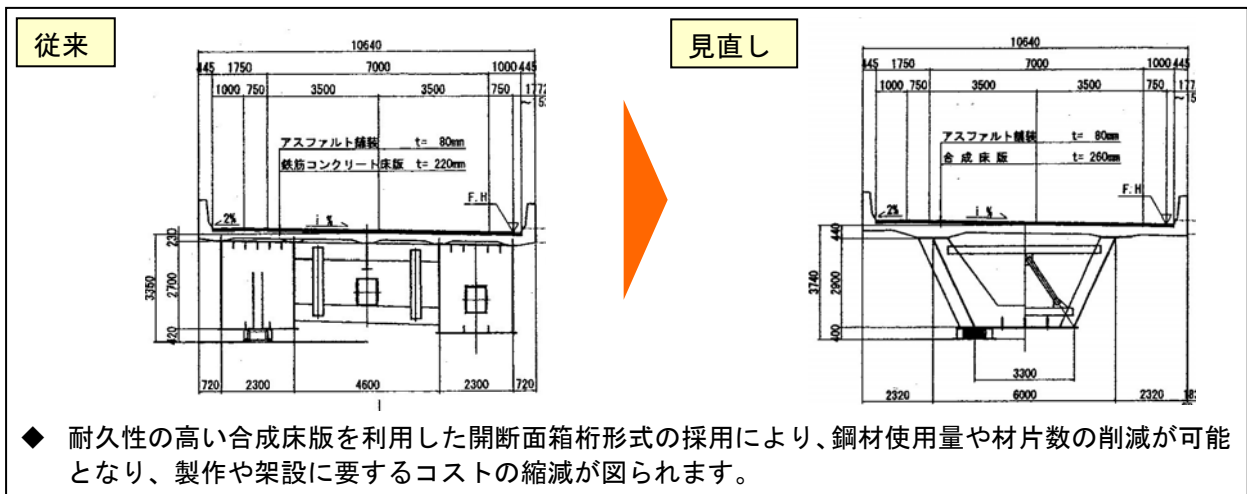
当該事業においては、以下のコスト縮減に取り組んでいます。

### ■ 取り組み施策

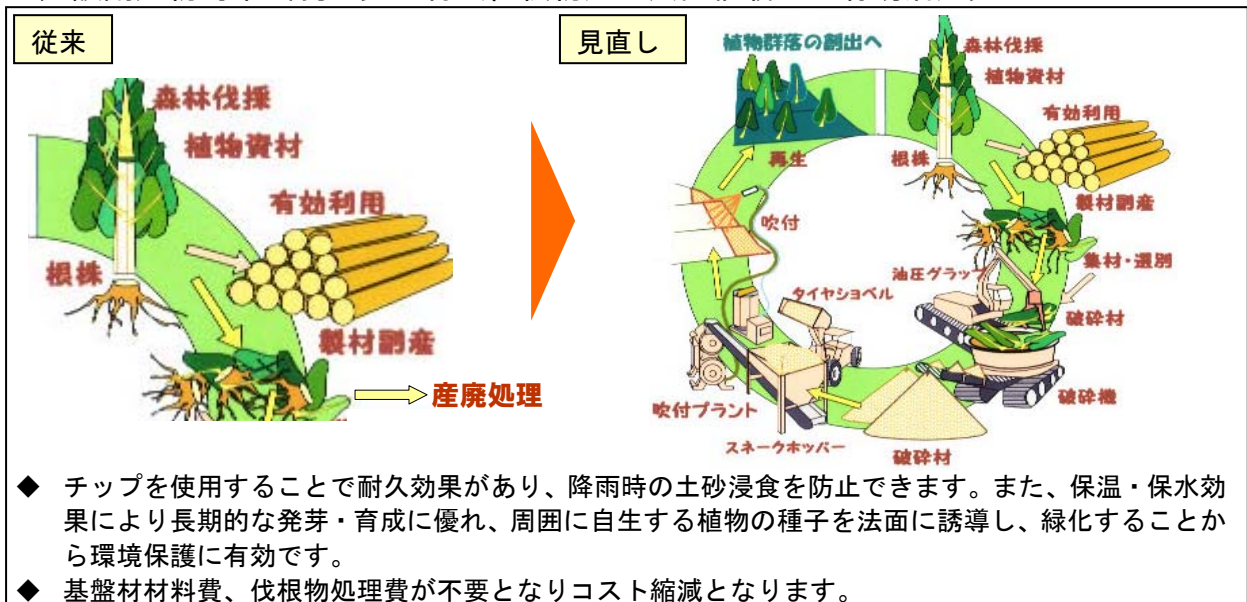
施策名	内容
設計手法の見直し	橋梁形式の見直し
建設副産物対策	現地発生材（伐根物）の法面植栽への有効活用

また、これまでの取り組みを継続実施することに加え、公共事業の全てのプロセスをコストの観点から見直す「国土交通省公共事業コスト構造改革プログラム」に取り組むこととしています。

### ■ 設計手法の見直し〔橋梁形式の見直し〕



### ■ 建設副産物対策〔現地発生材（伐根物）の法面植栽への有効活用〕





## 5. 関係する地方公共団体等の意見

地元自治体で構成する期成会が、事業促進の要望を行っていません。

期成会等名称	会長	主な構成メンバー	要望内容
網走支庁管内 総合開発期成会	網走市長	北見市、網走市、紋別市、大空町、美幌町、津別町、斜里町、清里町、小清水町、訓子府町、置戸町、佐呂間町、遠軽町、上湧別町、湧別町、滝上町、興部町、西興部村、雄武町の首長及び議会議長	管内は、広域分散型の地域社会を形成し、都市間距離が全国と比較して長く、観光・農林水産物輸送等産業活動において大きなハンディキャップがあり、物流の効率化、空港・港湾等物流拠点へのアクセス性の向上、観光産業の振興や地域間交流の活性化、救急医療への貢献などを進める基幹施設として、整備促進等を要望。 (平成20年度要望有)
西紋別地区 総合開発期成会	紋別市長	紋別市、滝上町、興部町、雄武町、西興部村の首長及び議会議長	道央圏・道北圏が高速交通ネットワークで結ばれ、物流・緊急医療・商圈拡大等で当地域は勿論、北海道の活性化を促し、発展に寄与するため早期整備を要望。 (平成20年度要望有)
国道273号 整備促進期成会	滝上町長	紋別市、滝上町、上士幌町、上川町の首長及び議会議長	豊富な資源と広大な面積を有する当地域の一層の発展を図るためには、産業経済活動の基盤であります道路網の整備が不可欠であり、特に立ち後れている高速道路体系の基軸を形成する高規格幹線道路網の整備をはかることが、緊急かつ重要な課題であり、早期整備を要望 (平成20年度要望有)

期成会等名称	会長	主な構成メンバー	要望内容
高規格幹線道路旭川・紋別自動車道早期建設促進期成会	紋別市長	紋別市、旭川市、上湧別町、興部町、遠軽町、湧別町、滝上町、佐呂間町、西興部町、雄武町、愛別町、比布町、上川町の首長及び議会議長	現国道333号の冬期地吹雪による交通障害を解消し、交通安全の確保を図るとともに、中核都市旭川市と遠軽町が北海道縦貫自動車道にも連絡し、道央圏・道北圏が高速交通ネットワークで結ばれ、物流・緊急医療・商圈拡大等で当地域が勿論、北海道の活性化を促し、発展に寄与するため早期整備を要望 (平成20年度要望有)
北海道上川地方総合開発期成会	名寄市長	名寄市、旭川市、士別市、富良野市、鷹栖町、東神楽町、当麻町、比布町、愛別町、上川町、東川町、美瑛町、上富良野町、中富良野町、南富良野町、和寒町、剣淵町、中川町、下川町、美深町、占冠村、音威子府村の首長及び議会議員	広大な面積を有する本道の地域間の均衡ある経済の発展と生活領域の拡大を図る上で必要不可欠な社会資本として、高規格幹線道路網の整備建設が重要課題であるため整備促進を要望 (平成20年度要望)
旭川市	旭川市長	旭川市	道北圏とオホーツク圏を結ぶ高速ネットワークを図るため建設促進を要望 (平成20年度要望)

## 6. 対応方針（案）

旭川・紋別自動車道 白滝丸瀬布道路は、以上のことを勘案すれば、「事業の必要性」「事業の進捗の見込み」「コスト縮減及び代替案立案等の可能性」の視点により、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられることから、事業継続とする。